

大阪日々新聞

三百
十号

西成郡太三區曾根崎村川村まゆと云々の二階まで
情死の一件は上福島山崎咲藏の二女一げと云々と
つもの此すの方三味線のけいこ通入項より
江戸堀三丁目三嶋安兵衛と云々の同此家へ
心算く立入互に知りあつてつもの思ひは深き
中とありて懐妊しんと子にわどろくあつたを
幸に父咲藏も安兵衛と夫婦せんを好まざらん
状を取置られど焼く火の舟安の安兵衛煙も胸かきげも
又下りすると聞及びて咲藏も心とつもの弟直七と頼て三月
十五方直七へ見送りし安兵衛も来合せて
文珠のちあも出がけ其日別を又一日する方へ
皆よりつものさげも奉公して身の過りも
出来し上改て夫婦とせんと云われ得心し
ていふに二階をが玉とつもの
とも有べしと兩人と二つの人と云われ怪
し物音聞へけいこ手燭を灯て
より見まがけ咽をきくか
つて息絶り安兵衛の
でん庖丁を腹ふつと立
つものつもの終息
とあり同村の人
らんな馬床のまゆと云々と
若ひわく忠告す。柳櫻記



花菱

川柳